

和訳 景岳全書

牟田光一郎 訳

日本中医薬学会

和訳景岳全書序

『景岳全書』は明代を代表する総合性医書であり、現代の中国でも高く評価されている。著者張景岳晩年の明末に著され、清代の1700年ころ子孫によって開版された。本書の内容は医学理論から診断法、感染症治療、臨床各科、婦人科、小児科、外科、本草、方剤と広く医学全面に及んでいる。現代中医学の方剤学の教科書にも、本書を出典とする多数の方剤、痛瀉要方・金水六君煎・左帰飲・左帰丸・右帰飲・右帰丸・拳元煎・泰山盤石散・八珍益母丸・暖肝煎などが収載されている。第9巻から37巻までに及ぶ「雜證謨」では病証ごとに古人の説を豊富に引用しながら、詳細に自説を展開し、多くの方剤を収録している。じっくり読めばすこぶる有益で、臨床に役立つ記述であるが、64巻の大部の書であり、原文で通読するのは骨が折れる。私も若いころから景岳を尊崇してきたが、必要に応じて本書の一部のみを読みかじってきた。

この大書に、長年向き合いコツコツと和訳を進めてきたのが、牟田光一郎先生であった。早くに完訳されていたこととお聞きしていたが、あまりにも大部な書ゆえ、出版が困難であった。この度、牟田先生と長年の交遊がある吉富誠先生のご尽力を得て、その全文が日本中医薬学会ホームページ上に公開されることになり、和文で読めることたいへん悦ばしく、ありがたいことである。牟田先生のご努力を思うと感慨深く、吉富先生の貢献に感謝したい。中医学、漢方を学ぶ者

の活用を期待したい。

張景岳（1562 ころ～1639 ころ）は明末、会稽山陰（現在の浙江省紹興）の人、軍人の家門の出身で、彼自身壮年期に清との戦に出征している。少年時代、父に従って北京に出て、医を学んだ。『易経』にも精通し、天文・地理・音律・兵法などにも通じる知の巨人であった。壮年時代は『黄帝内経』の研究に打ち込み、30年の歳月をかけて、内経の条文を分類・摘録し、註解を施し、『類経』・『類経図翼』・『類経付翼』の3書を編纂した。内経を学ぶ上で、たいへん便利な労作である。

景岳は晩年を故郷会稽で過ごし、『類経』など内経研究3部作に続いて大書『景岳全書』を遺した。景岳は命門と腎の元陽と元陰を温補することを重視した。その観点から元精を補い形と陰を益する熟地黄と元気を補い気と陽を益する人参をよく用いた。彼の創製方は『景岳全書』中に多数展開され、第50・51巻の「新方八陣」にまとめられている。そのうち「補陣」に収載される29方のうち、23方に熟地黄が、10方に人参が配合されている。このように温養を重んじる立場から景岳は現代の各家学説では薛己、趙献可らと並び「明代温補派」のひとりとして位置付けられている。『景岳全書』を通じて彼の命門を重視する医学観、あまたの名方剤、熟地黄、人参の運用などを学ぶことをお勧めしたい。

牟田光一郎先生は、早くから中医学を学び、日本に導入した大先輩で、私も

1980年ころから中医学の学習会や、中国への研修旅行などでたびたび警戒に接してきた。先生はまた太極拳の大家でもあった。若いころに私が景岳の熟地黄の用法を研究して『漢方の臨床』誌に投稿した論文を評価くださって、景岳のことを語り合うこともあった。中国に研修に同行した折に、いつか景岳の故郷会稽と一緒に行ってみたいねと話し合ったこともあった。その後、私は紹興を訪れることがあったが、牟田先生と一緒にという機会は永遠に失われてしまった。

熊本県御船町の牟田先生宅を訪ねたことがあった。2階の書齋に通していただき、ここで先生は『景岳全書』に向き合ってきたんだなと感動を覚えた。生涯をかけた労作、『景岳全書』和訳の出版が叶わず亡くなられたことは、先生にとって痛恨のことだったと偲ばれる。いまここに吉富誠先生のご努力で『和訳景岳全書』として私たち日本中医薬学会のホームページに公開できることは、一入ありがたく、牟田先生にもお喜びいただけるのではないかと思う。景岳と牟田先生の学恩に感謝申し上げたい。

令和辛丑季秋

日本中医薬学会会長 平馬直樹

編者序文

今般牟田光一郎先生の大著「和訳景岳全書」を、日本中医薬学会ホームページ上に公開することになりました。

牟田光一郎先生は日本における中医学受容期先駆けのお一人で、1963年頃より独学で中医学の勉強を始められました。日中国交回復によって中医学情報が日本に入ってきた頃です。地元大学の中国語教師から中国語を学びながら、黄帝内経を始めとして明清代までの主要古典を読破。その中で出会った張景岳を一生の師匠とされ、景岳全書の邦訳に取り組みました。手書きの原稿は6704頁に及びます。1987年9月9日に脱稿しましたが、残念ながら活字化して出版することはできませんでした。

その後1991年出版の人民衛生出版「景岳全書」、2008年出版の黒竜江人民出版社の「景岳全書訳注」を参考書籍として、再度景岳全書の邦訳に挑戦。当初はご自分で巻30までパソコン入力。入力困難な活字もあり大変苦勞されているのを拝見し、私から手書きを提案しました。手書き原稿がある程度たまる、私のクリニックに持参なさり、スキャナでPDF化しました。先生も被災なされた、熊本地震から1ヶ月余り後の2016年5月22日に最後の原稿が届きました。その後2019年10月20日82歳でお亡くなりになりました。

その後壮年期に手がけられた第1作目の原稿をご遺族よりあずかりPDF化しました。一部行方不明の原稿があり、欠落部分があります。第2作目の原稿は前半活字、後半手書きの原稿です。これにも欠落部分があります。牟田光一郎先生は第1作に不満足であったので第2作に取り組みましたが、両者をいっし

よに PDF で公開することにより、相互補完できると判断しました。PDF 原稿には「しおり」機能を利用して目次をつけましたので大変便利にお使いいただけます。

牟田光一郎先生の四半世紀にわたるお仕事の結果を後世に残すことが、弟子である者の務めであると、中医薬学会のご理解を得てウェブ上に公開することになりました。中医学テキストや文献には景岳全書の文章が多数引用されています。皆様のご活用をお願いいたします。

2021年10月20日

日本中医薬学会理事 吉富 誠

景岳全書に学ぶ

泰泉堂 牟田医院 牟田光一郎

張景岳について

張景岳の先祖は四川・竹綿県の出で、軍人として功を立て、山陰の紹興に封じられたが、彼の父は定西侯の客となっていた。景岳の生年は西暦 1563 年、没年は 1604 年といわれている。名を介賓、字名は会卿、また通一子と号した。介賓が十四歳の頃、京都（現在の北京）に遊学し、当時の名医金英に医学を学び、ことごとくその伝を受けた。彼は医学の面でもすぐれていたが、そのほか兵学、数学、天文地理、易占術、音楽などにすぐれ、その多才博学は驚くべきものがある。当時はちょうど明末に当たり、清の勢力が東北から次第に興ってきていたので、彼は中年の頃は殆ど軍師として従軍し、河北、東北を転戦した。

だが明の軍は既に力がなく、彼も目覚しい軍功を立てることはなかった。転戦の途次、陣中で星占いにより皇帝の崩御を予知し、まもなく国の滅びることを知り、故郷の山陰へ帰った。時に五十八歳であった。その後は医学に専念し、七十八歳で世を去った。

医学の面においては、景岳は約三十年間にわたる『内経』の研究の成果を『類経』に著し、また『類経附翼』、『類経図翼』、『質疑録』を著した。晩年に彼の医学の集大成である『景岳全書』を著した。彼は始めの頃、朱丹溪の寒涼攻伐の多用に大いに反対し、真陰・元陽の補益の必要性を主張し、温補剤をよく用いたので、後世の医家から「温補派」と称されるようになった。景岳の生きた時代は明末の乱れた時代であり、彼の言う通り「虚せる者、十の六七」であったことを知るべきである。

張景岳の時代、西暦 1563 年～ 1640 年？

- | | |
|--------|------------------|
| 1583 年 | ヌルハチ挙兵 |
| 1592 年 | 秀吉朝鮮出兵 |
| 1597 年 | 秀吉朝鮮出兵 |
| 1599 年 | 満州文字の創設 |
| 1616 年 | ヌルハチ即位（太祖） |
| 1620 年 | 神宗死去 |
| 1636 年 | 清国創立 |
| 1662 年 | 明滅亡 |
| 1597 年 | ナントの勅令（信教の自由の確立） |
| 1582 年 | 大友、木村、有馬ローマへ使節派遣 |
| 1582 年 | 細川ガラシャ、キリスト教洗礼 |

景岳全書の内容

伝忠録	脈神章	傷寒典	雜証謨	婦人規
小兒則	麻疹詮	痘疹詮	外科鈴	本草正

新方八陣 古方八陣（全六十四卷）

伝忠録（上、中、下の上）

明理	陰陽篇	六變篇	表裏篇	裏証篇
虚実篇	寒熱篇	十問篇	論治篇	気味篇

附：

三気飲 新方熱陣十七

治血気虧損、風寒湿三気乘虚内侵、筋骨歴節痺痛之極、及痢後鶴膝風痛等証。

当歸 枸杞 杜仲各二錢 熟地三錢或五錢 牛膝 茯苓 芍薬（酒炒）

肉桂各一錢 北細辛（或代以獨活） 白芷 炙甘草各一錢 附子随宜一二錢

水二鐘加生姜三片、煎服。如気虚者、加入參白朮随宜。風寒勝者、可麻黄一二錢。

此飲亦可浸酒、大約每薬一斤可用焼酒六七升、浸十余日、徐徐服之。

凡例

和訳景岳全書 は2部構成です。

第1部は牟田光一郎先生壮年期に取り組まれた手書き原稿をPDF化したものです。全て手書きです。

第2部は老年期に取り組まれた原稿です。前半の巻1から巻30までは牟田光一郎先生がワープロで活字化なされた原稿です。巻31から40までは欠落しています。巻41から巻64までは手書きの原稿です。

PDFのしおり機能を使って目次をつけて利便性を高めています。索引はありません。

福岡医師漢方研究会報2011年12月第32巻12号に掲載された牟田先生講演抄録「景岳全書に学ぶ」を福岡医師漢方研究会のお許しを得て掲載させていただきました。

欠落部分は以下のとおりです。

■第1部欠落部分

巻之4

巻之20の霍乱から巻之22

巻之28から30

巻之36 經氣蔵氣以降 38まで

巻之63～64の184清肝解鬱湯まで

■第2部欠落部分

巻之31から40